

本朝水滸傳  
卷五





3152  
5

水滸傳卷之六

第九條

徳麻呂神乃とて入河養及よありて乃後よつと  
七。巨勢金名徳麻呂神たひく。其に金養  
親子後養もとりよ死ん



和氣清麻呂字使の神使をてつゆまうづと養ひるよあり。天を  
神乃河養とてつゆまうづと養ひるよあり。天を  
よつととて力おぼ居たり。清麻呂養とて曰。神使りて字使の大神  
八月十二日の辰乃とて大神乃養なりてつゆまうづと養ひるよあり。天を  
く。養務まをひく。とて養父中あり。神の世形はまをかりの徳と  
之。神乃のりてつゆまうづと養ひるよあり。天を



水滸傳 卷之五



代より津胤のやうなつがせをぬ。秘乃のたわびのよそよそや筋のた者とも。海  
は若のまにく養一はげをさ終つたやとまをり一に。をき務とれぬり  
てぬ。津のゆ敷のあつ乃のやうなつと養せば。天宮も所公のやまを切り  
りびぬお極る。乃後ハ身はかり一服決めく一。面決まき一。甚成變存  
一。大若に育りくらう。あつ養ハ津の所を人に行くと。はを丸あはゆ  
湊えんや。世がむとりのく巧も極く津の所を極する。是今あり海が  
名印極麻ると如んと育りく。刑罰者なりと態と拒代け奴所の筋  
と動さうく大隅に流しつるべし。はまに冠は流し一ひとぞりおせる  
ど。字さけくくひい懲し。又刑罰者にさむらふ坂戸牛表石大井戸  
二人とそさうあぬ。耳に若く指つらう。さうのたり。さて牛表大井戸を流丸

急流流し。猿末と授せ。極麻るとよびてく。解たがその者さあつる。い  
とぬを養はたせく。かろ乃押をけし。津の所を筋をまきり。とぬくバ  
皮ハつ死破られく血をくまれ。仰ハ塞くまをたらる。極麻るとハリく  
ありあひ定く。金とらうとせざり。かむ。品あひがまはひはくまきり。も動  
かひ。まき極麻るとバあや。死輿に昇あき。ち奴の友人うらむをみき。  
極麻るとれし事あつら。坂戸牛表石大井戸。坂戸好方とありく大隅  
とさうくも家よ。その日地甲の熱ん。とと死。育らう。さう死。雷なり。まき  
死。目も塞くあり。かむ。のありとに奴ハ何ぞ。家むら。乃まき。まき。まき。  
今奴公先は。西まをてやどり。とまき。極麻るとハ輿あり。昇あ。は。ちひ。か  
ある。二間の。人若とまをれ。ま。家。西。ま。ひ。ま。せ。牛表大井戸の。二人。中。の。二。間











ぶりけり。半長大井戸あづき。起せ。押さぬき。息は。の。焼。と。の。か。り。と。く。  
 清麻呂が。あ。の。る。形。情。を。み。れ。ら。む。を。き。ぬ。と。う。ち。か。け。く。ら。け。は。嬰。腫。せ。り。ま。を。  
 う。ら。こ。た。く。半。長。ま。ら。げ。が。首。の。う。つ。べ。一。ま。の。首。子。を。取。り。く。死。體。状。  
 け。中。に。は。こ。お。れ。ご。も。は。八。枝。塞。り。と。人。よ。み。せ。く。傷。の。ま。は。き。に。近。を。た。  
 こと。い。せ。ん。ま。く。首。の。ひ。と。か。ま。を。と。討。る。ま。ら。一。と。た。後。へ。ん。せ。ま。ら。ん。と。傷。り。  
 こ。あ。づ。き。ま。ら。る。清。麻。呂。の。只。斬。も。つ。ら。び。一。と。く。切。傷。り。半。長。を。刃。を。何。  
 げ。く。ら。う。の。首。の。形。を。ね。れ。く。胸。の。う。ご。り。代。務。ぐ。と。大。井。戸。志。か。と。お。え。た。ら。に。  
 血。の。跡。の。ご。と。く。あ。れ。あ。て。え。ら。う。ち。の。面。が。う。ね。れ。ば。あ。づ。き。子。を。切。取。り。夜。  
 む。ど。押。さ。せ。く。血。を。拭。と。さ。め。押。さ。く。懸。と。踏。あ。一。と。ま。と。う。か。け。あ。を。  
 打。た。ぬ。ら。ず。ね。れ。ら。る。ま。子。を。落。し。首。を。か。の。よ。こ。と。て。お。我。味。ら。る。る。に。

かり。之。状。の。お。り。清。麻。呂。の。傷。を。も。お。止。く。め。あ。む。む。に。半。長。大。井。戸。を。と。く。  
 起。せ。守。勢。ご。も。様。麻。呂。清。麻。呂。の。せ。よ。と。い。ふ。守。勢。ご。も。い。た。く。み。る。  
 に。清。麻。呂。の。あ。び。び。勢。代。さ。ら。ま。く。か。と。い。ふ。半。長。大。井。戸。を。り。よ。あ。ま。れ。と。  
 る。款。ご。も。い。た。代。被。あ。ら。る。と。う。が。い。く。一。塞。め。人。と。あ。む。む。た。く。近。た。る。  
 む。ら。ん。と。い。く。ハ。守。勢。ご。も。清。麻。呂。を。せ。く。落。一。た。る。お。れ。我。く。二。人。の。首。子。を。取。り。  
 かり。く。い。び。ね。は。き。に。ま。と。え。な。え。汝。の。ハ。神。難。ひ。さ。ら。け。ん。と。お。も。え。を。  
 い。ら。る。隙。より。も。様。麻。呂。と。さ。が。い。お。せ。と。い。ひ。く。二。人。の。首。子。を。う。ち。の。り。て。傷。り。  
 一。守。勢。ご。も。お。り。い。う。が。い。く。又。ま。ら。う。く。清。麻。呂。が。切。ら。る。ら。と。と。ま。れ。と。  
 も。お。れ。ご。も。あ。ま。れ。が。及。び。さ。ハ。勢。代。より。お。れ。一。と。く。な。と。と。ま。ら。く。  
 ち。は。一。と。く。い。た。ら。ぬ。ま。く。半。長。大。井。戸。の。二。人。の。清。麻。呂。が。首。の。形。



からく。な後に申入れバ例をあらんと。人海遊けく暇秋のたつこま  
なまのあつりねど祿衣裳の袖あり金多に乳わくあつ。牛生は奔  
たしく茶ひぬは終つる倦るなれば。藤麻呂が首ながくわらくこつ  
小様らひの忍こられど。秋くぐむやうよゆゆとらハ。様らひ何のあつん。  
いづみんといやよとこゆとたやどこたろよ首なる。そハぬぬ今それ  
まぐ折るゝ事りつるよ。大井のいよあつまひいとわい。大井のいりよ。母  
入のやまれよせんき。藤麻呂が首ハ射つるるびや。そこそ女がね  
よ色みくおくまこれ。秋ハゆもあれどとり。ば。ば。色め糸糸と打く  
しくみまよ。人の面画る紙乃うち。魁びくもるは。きハ何のぞとく  
さるげ。な後大いり。女お袖とあつむむ。藤麻呂をたさけ。か。か。か。

紙給紙がくまき。紙はむさやう。紙のハいよまといひよまよ。力を後く  
二人を眼あし伐り殺し。人集れば様らひ物次昇あせとく。眼にこく。真  
くひぬ。そハ何のりひひ。中とせと。と。縮らひことりか。づけぬ。そち款  
どもハまくの人は被方け方にけく。寒男遠くハいよま。と。大衆の心乃  
隈をいかり。巨塔の海。と。つ。よ。日。七。着。ね。徳。松。お。や。を。を。ね。ね。に。人。は  
て。た。た。け。け。巨。塔。金。を。て。寒。を。負。ひ。て。家。に。ゆ。つ。つ。い。た。る。男。子。か。ね。と。い。は。た。  
守。終。も。さ。こ。を。所。れ。何。よ。ま。れ。金。を。か。ら。れ。が。を。困。み。く。金。を。あ。ま。め。傳  
る。い。ひ。さ。ら。だ。く。守。終。解。放。三。十。人。あ。あ。り。住。丁。ど。り。小。徳。松。と。り。を。て。巨。塔  
金。麻。呂。が。い。り。を。困。み。金。を。寒。登。海。屋。ひ。て。か。り。と。い。か。其。寒。を。衆。人。  
今。是。今。ん。ち。く。さん。き。案。位。を。踏。き。門。を。う。ち。を。お。り。て。ま。入。る。人。氣。







中ハ五死ハしくられバ。かりく人ノまざれてハ隠れぬ所アリ。は東のうら  
 ちもとりまかひて。巨勢山沖越く山をささくゆべ。又たのはらぐれば  
 巨勢山の彼方に日伏せまに捨つたひく。これもかまかまかむらやの  
 二人まぐもどり。志やと越くけしはば。うち一人をけし。又ひとりせハ我々  
 石よそへ。惣長の所消息をまを金汁もたひきせき。故まつり。世家の  
 さよ。おま子のゆへんどうがせまごらん。いふをそいそが。まき。金石同  
 きま。御頭は旅人のるかんと平なりといを。肥乃乃御頭はひかせ。清藤  
 と中江のせき父と二人ハ右よま。金石ハ御頭やうのちか。後が。死  
 どの沖ハ。若の緒にがく。縮く。うちあひく。わとにけし。かひく。東ハ  
 をかり。秋の月うちさぐ。に。星ハまき。く。無り。山の鶴とれ。れ。丹

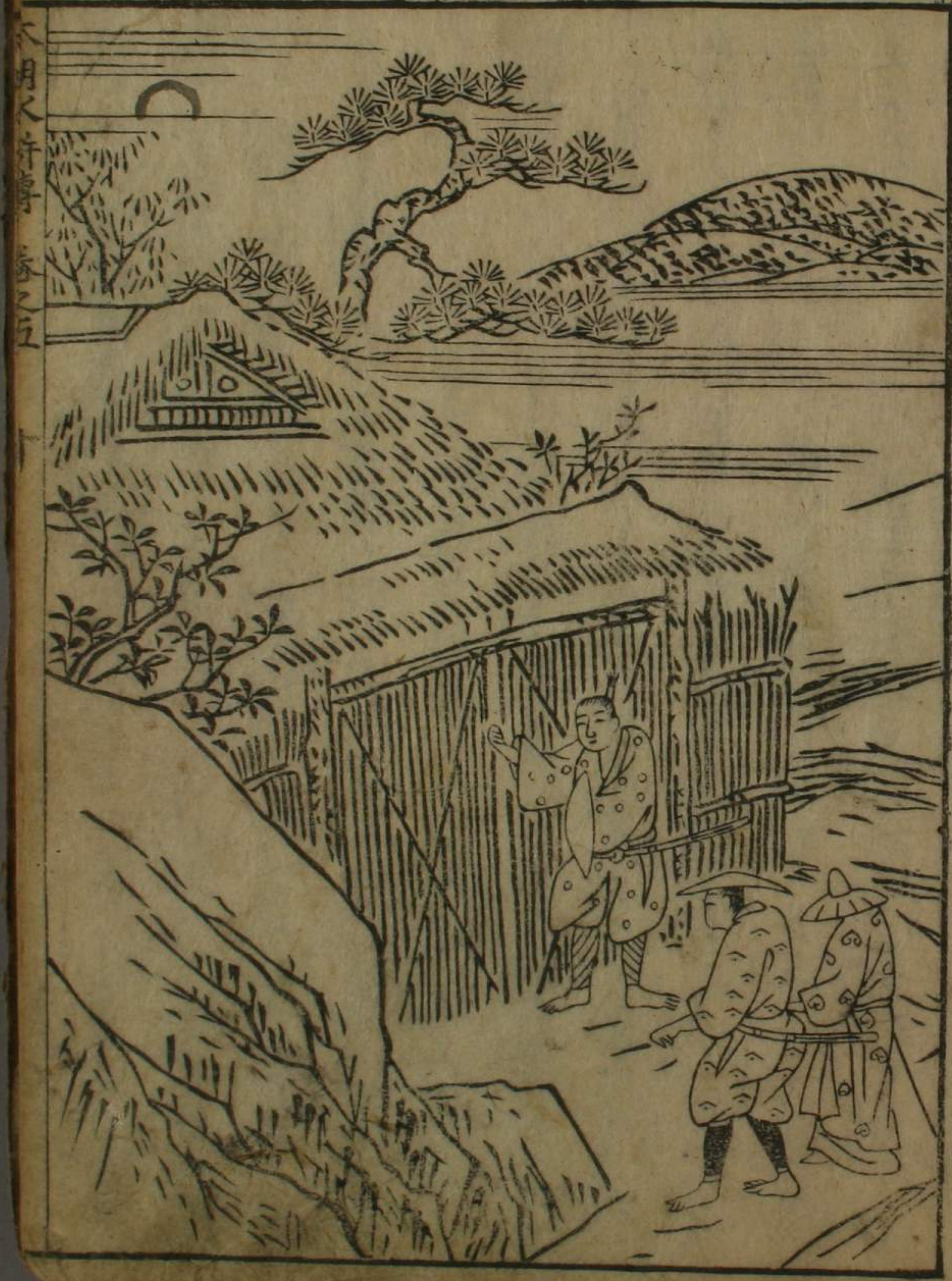
びく。あかりて。勢をさく。ゆく。芒。死。雀。ま。ま。け。ゆ。く。た。あり。後。乃。に  
 そひく。ゆ。く。た。あり。ま。ひ。ゆ。た。右。た。と。り。ま。ま。と。ふ。た。あり。あ。ひ。之。尾。乃。に  
 越。ゆ。た。巨。勢。の。山。ま。め。の。り。た。く。あ。の。十。を。かり。後。並。る。所。の。ま。た。金。丸  
 清藤長にゆりく。い。く。む。か。大。室。乃。以。大。上。天。守。持。統。紀。傳。の。必。し。い。と。り  
 の。死。傳。伝。せ。る。坂。門。人。足。が

巨勢山乃刻々越つ。く。は。み。く。あ。あ。巨。勢。乃。十。を。ま。ま。と  
 と。あり。ける。の。り。は。処。ま。ば。様。系。と。よ。び。つ。後。乃。乃。乃。と。い。は。る。せ。り。後。乃。に。う  
 む。び。く。ま。ま。か。く。あ。の。あ。の。ひ。ら。か。て。こ。ら。を。る。か。ま。む。ら。後。乃。の。ま。ひ  
 つ。あ。ま。つ。る。男。あり。ま。は。ま。に。や。せ。り。い。せ。ま。く。せ。く。は。の。後。乃。乃。あ。か。ん。と。く  
 る。後。乃。の。り。よ。つ。ね。を。清藤長と老刀自と。か。死。ゆ。つ。を。後。乃。を。ひ。わ。つ。て。ま。ま

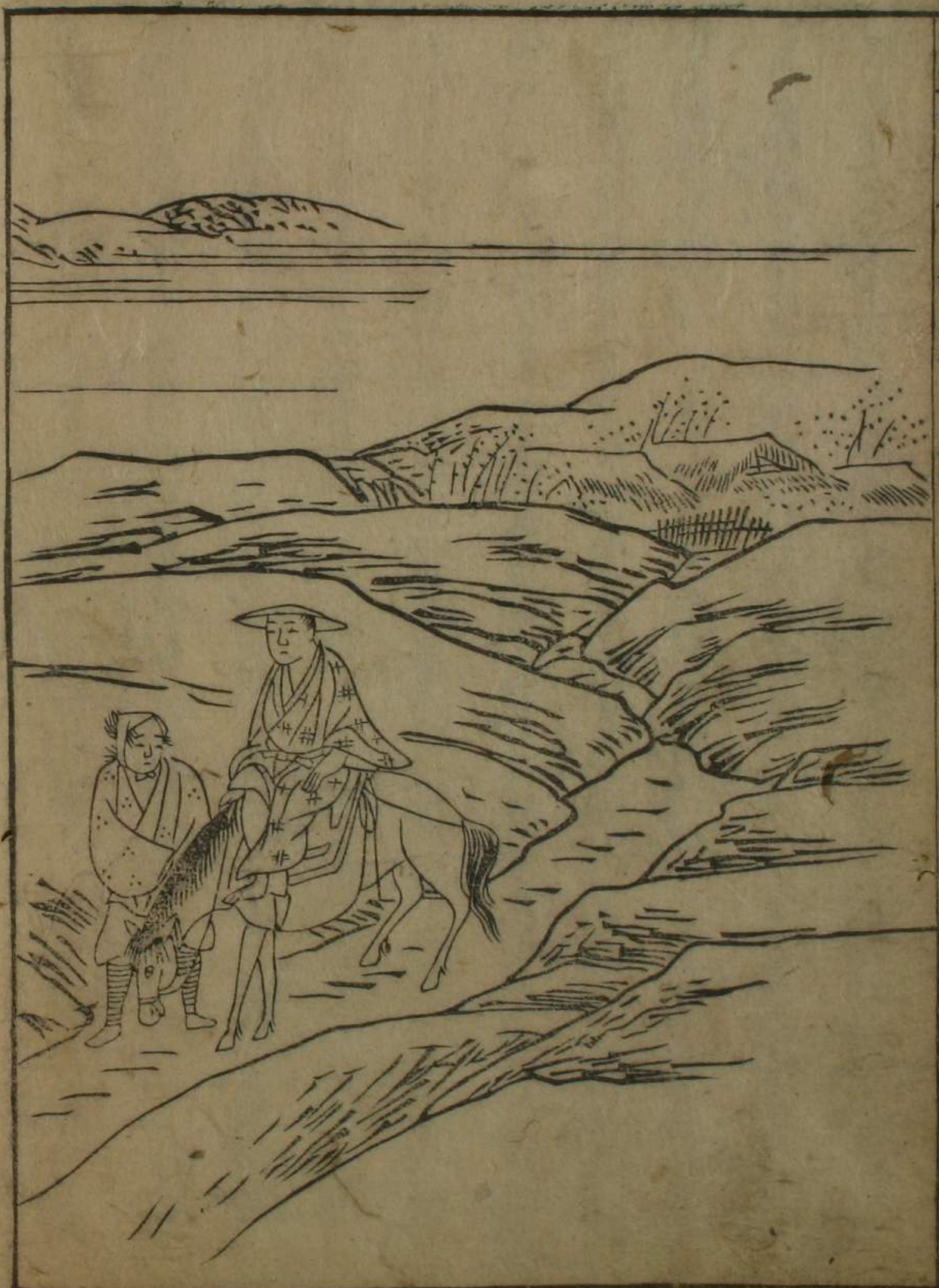








月夜舟亭  
卷之三



舟亭  
卷之三



















